

東広島植物園では、園内での活動を中心に、温室や圃場で見られる季節の花など、さまざまな情報を紹介しています。

・本施設は、宮島自然植物実験所、総合博物館、CSR(総合博物館公認学生ボランティア)など多方面から支援を受けています。

### 森づくり活動



R6 年度の「ひろしまの森づくり事業」からの援助を受けて、キャンパス内では、森林組合による枯れマツの伐採が行われています。広範囲にマツ枯れが進行したため、大量のマツが伐採されました。総合博物館やCSR、宮島実験所の協力を得て、伐採したマツを玉切り

にして持ち出し、瀬戸内 CN センター融合研究の助成金により購入していただいた新割り機を使って、薪作りも行っています。作った薪をどのように活用していくかは、現在検討中です。



マツ枯れ跡地が、これからどのような植生に変化していくのか、楽しみです。

### キャンパスのネズミサシ

ヒ/キ科の常緑の低木または高木。別名は、ネズ、ムロ



葉は針葉形で3輪生につく



雌株の球果



ヒ/キ(ヒ/キ科)



スギ(ヒ/キ科)

名前の由来は、枝をネズミの通る道に置くと、葉が痛いのでネズミを防ぐことからつけました。材はかたく緻密で有用材として利用されます。

キャンパス内では、マツ枯れ伐採の後、特にこのネズミサシの木が目立つようになってきました。このほか、キャンパスで見られる針葉樹としては、ヒ/キやスギがあります。

カクテルに使われるジンは、セイヨクエヌの球果を集めて蒸留酒に香り付けをしたものです。

### 水田の雪とアカガエル



1月から2月にかけて、寒波が長く滞り、生態実験園の水田も雪で覆われました。気候の影響か、ニホンアカガエルの産卵も例年より遅れました。



今年は、ヒートアップも水田の方で早く卵塊が確認されました。

### “教育学部のシンボルツリー”

### クスノキ

東アジア及び東南アジア一帯に分布するクスノ科の常緑広葉樹で、高さは8-25mほどにもなる大高木です。成長スピードが速く暖地でもよく成長します。木や葉には、防虫剤の樟腦(しょうのう)の成分が含まれています。木材として耐久性に優れ、虫や腐敗に強く、神社仏閣や家具、船の材料などに利用されます。

比重が重く、腐りにくいことから、宮島の厳島神社の大鳥居の柱には、クスノキが使われています。



### 栽培実習・R6 年秋コース



干し柿作りやしめ縄作り、たくさん作りなども体験しました。

R6 年秋コースを終了しました。今回参加されたみなさんも、非常に熱心に活動に取り組まれました。みなさんで楽しく作業を行い、美味しい野菜をたくさん収穫することが出来ました。実習の最後には試食会を行い、栽培の成果をしっかりと確かめました。



### CSR シンポジウム



県広生が活動を紹介

12月21日に、CSRが企画し、「いきものと生きる」をテーマにシンポジウムを実施しました。この会では、山田先生のご講演、地域の方からの発表などがあり「人と自然の関わり方」について考える場となりました。総合討論では、みなさんから活発な意見が出ました。



CSRからの発表

### シラガズドウの定植

シラガズドウは、岡山県の高梁川流域にのみ分布し絶滅が危惧されるつる植物です。1918年に牧野富太郎博士により新種として発表されました。

今回、関木郎名誉教授の自宅に栽培されていた株を譲渡していただき、植物園に植栽しました。



### 園内の植物

#### カナリーヤシ Phoenix canariensis

温室鉢栽培



ヤシ科

カナリヤ諸島原産。ギリシャ神話に出てくるフェニックス(不死鳥)にあやかって、広島大学のシンボルとされており、学章のデザインにも用いられている。

### 園内の植物

#### ソテツ Cycas revoluta

温室鉢栽培



ソテツ科

裸子植物。九州南部の海沿いの岩場などに自生。雌株は、赤朱色になる種子をつける。茎や種子は有毒。根には窒素固定能をもつシアノバクテリア(藍藻)が共生している。



【お問い合わせ先】

広島大学 東広島植物園

TEL:082-422-7111 (内線2842)

E-mail: tshioji@hiroshima-u.ac.jp